

# 朝見遺跡（第6次）その5【最終回】

所在地：松阪市和屋町・立田町（まつさかし わやちょう・たつたちょう）

位置情報URL：[三重県地図情報サービス](#) [朝見遺跡発掘調査現場](#)

## 今年度の朝見遺跡の発掘調査が終了しました。

朝見遺跡では、昨年5月から発掘調査を始めてきましたが、本年2月23日に無事終了することができました。今年度の調査では、縄文時代～江戸時代に至るまで幅広い時代の遺構・遺物が見つかりました。HP最終回となる今回は、前回の更新以降での調査成果（縄文時代・鎌倉時代）を中心にご紹介します。

### 縄文時代の集落 ～遺構と遺物～

縄文時代中期末～後期初頭（今から約4500～4000年前）の遺構・遺物が見つかりました。確認した遺構は、埋設土器3基、土坑13基、ピット（小さな穴）多数です。埋設土器は深鉢の底部を下に据えた状態で見つかりました。子どもの埋葬用の容器、または貯蔵用の容器である可能性が考えられます。今回の調査では、竪穴住居や掘立柱建物のような遺構は確認できませんでしたが、見つかった多数のピットは竪穴住居や建物の一部であったと考えられます。



縄文時代遺構面全景



埋設土器の出土状況



黒曜石の石鎌



出土した石錘

朝見遺跡のあるところは、櫛田川の氾濫によって運ばれてきた土砂の堆積によってできた土地で、標高が約5～6mの低地です。これら縄文時代の遺構は、微高地上にあることから、河川による氾濫の被害が少ない安定した場所に集落があったと考えられます。

出土遺物は、縄文土器・石鎌（黒曜石）・石錘・台石・磨石などがあります。注目すべきは、石錘が多く出土したことです。石錘は、漁で使う網の下端に取り付けるおもりであることから、朝見遺跡にいた縄文時代の人々は漁撈をなりわいにしていたと推測されます。

### 鎌倉時代の木棺墓

鎌倉時代（13世紀前半頃）の木棺墓が1基見つかりました。

木棺の大きさは、縦1.3m×横0.7mで、棺の底から副葬品である漆製品5点・鉄製の刀1点・土師器皿1点と被葬者の歯が複数出土しました。



木棺墓全景



棺内副葬品（北側）の出土状況

漆製品は、黒漆塗りの烏帽子（1点）、黒漆の上に赤漆で模様が描かれた椀（4点）です。副葬品のうち6点が棺の北側で出土し、歯が烏帽子の南側で複数まとめて出土しました。木棺の大きさや副葬品と歯の出土状況から、被葬者は北側に頭が置かれ、脚を折られて埋葬されていたものと考えられます。そして、一般的な土器だけではなく、複数の漆製品が副葬されていた点から、被葬者は地域の有力者であると推測されます。このように1基の墓から漆製品が5点以上出土したのは、全国的に見て大変珍しいことです。

### 今後の朝見遺跡の発掘調査

来年度以降も、ほ場整備（朝見上地区）に伴う朝見遺跡の発掘調査は続きます。今年度までの調査（第1～6次）では、平安時代の大型掘立柱建物、また青銅鏡が計4面出土するなど、伊勢神宮や齋宮にも関連する有力者がこの土地の耕地開発に関わっていたであろうことがわかりました。今後の調査でも新たな発見があると期待されます。

最後に今年度の調査期間中、地元の松阪市和屋町・立田町の皆様には、多大なご協力とご理解を頂きながら、調査を進めることができました。改めて皆様の埋蔵文化財保護へのご協力を心から感謝いたします。



発掘調査風景

#### <問い合わせ先>

〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503  
 三重県埋蔵文化財センター調査研究1課  
 担当者：渡辺 和仁  
 電話：0596-52-1732 FAX：0596-52-7035  
 E-mail：maibun@pref.mie.jp